

# 第 I 部 指針の策定にあたって

## 1 子どもを取り巻く環境

### 1) 少子化と核家族化の進行

少子・高齢化の波の中で、核家族化の進行が著しく、また都市型のプライバシー重視のマンションの増加や夜型生活など、ライフスタイルの変化が著しい。

このような状況を背景として、かつてのような祖父母や親類、近所の人々、あるいは地域の人々などによる、家庭の子育てをサポートする体制が弱まってきており、子育て力の低下を招く大きな要因の一つと考えられる。

### 2) 女性の社会進出

昨今は、男女共同参画社会の機運が浸透し、女性の社会における自己実現や、家計の担い手としての役割がなお一層高まってきている。こうした社会進出に伴い、都市部の自治体では、父親・母親とも安心して働くことができるよう、また一方では、親の介護問題などともあいまって、子育て支援、とくに保育園に対する需要が急速に高まっている。

### 3) 育児不安について

都市部における核家族化は、子育て不安を抱える家庭に対する育児や教育支援を、保育園や幼稚園も含め、地域ぐるみで取り組んでいく必要性が高まってきていることを示唆している。

そして、育児不安やストレスなどによる虐待や育児放棄などは、子どもだけでなく、その親にとっても深刻な問題となっており、さまざまな関係機関との連携のもと、各種相談体制の充実をはじめ、コミュニケーションの場の確保などを通じて、悲劇を未然に食い止める対策が急務となっている。

## <参考>

### ○幼稚園をめぐる動向

- ・平成元年には、25年ぶりに幼稚園教育要領が改定され、3年保育の普及などが示され、その後平成10年の改定では、子育て相談の充実や預かり保育事業の推進など、子育て支援の拠点としての役割が示された。そして20年3月の改定では、さらなる子育て支援の充実と、幼稚園と小学校の連携、そして食育等についての指針が盛り込まれている。

### ○保育園をめぐる動向

- ・子どもを健やかに育てることや、地域の子育て支援の拠点としての機能が改めて求められていることに加え、逼迫する保育需要を背景に、株式会社

やNPO 団体、あるいは、幼稚園を経営する学校法人でも保育園を運営できることとなった。これらによって、保育園と幼稚園の垣根はさらに低くなってきている。

また、公立保育園の民営化や民間委託(指定管理者制度)が可能になるなどの規制緩和が進められている。

#### 4) 幼保一元化・幼保連携のうごき

平成18年10月、利用者の多様な保育ニーズに対応できる、保育園と幼稚園双方の機能を併せもった「認定こども園」の整備が法的にも保障され、以降、自治体のなかでは、認定こども園の整備が徐々に進められつつある。

[平成18年10月1日施行 就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律]

## 2 現状と課題

### 1) 市の開発状況

本市では、宅地開発の時期に応じて次のように3つのエリアに分け、それぞれの特徴にあったまちづくりを進めている。

エリア	開発時期	特質・イメージ
元町	古くから市域であった地域	・ 所々で漁師町の面影、伝統や歴史、文化が残る、浦安弁が聞かれる。浦安駅周辺を中心に賑やかだが、再開発の計画が進む。
中町	第1期の埋め立て地域	・ 新浦安駅周辺等埋め立て初期の整然とした街。子どもは大きくなり、比較的高齢化が進んできている。
新町	第2期の埋め立て地域	・ 新しく近代的な景観、異国のような雰囲気。若く、多様な住民層が住み、今も開発展開中。

### 2) 子どもたち

保育現場にいて日々接している職員の率直な目線から、浦安の子どもたち(浦安っ子)の特徴を次のようにとらえた。

#### ①浦安っ子の長所

- ・ 元気でのびのびしている
- ・ 集団で活動することが好きである。みんなで何かをする楽しさを知っている。
- ・ 周囲のものに対して興味・関心が高く、好奇心が旺盛である。
- ・ 一つのことに熱くなれるところがある。(お祭りなど)
- ・ 約束ごとを守ろうとする気持ちをもっている。
- ・ 場の雰囲気を感ずることができる。

## ②浦安っ子の短所

- ・ 実体験が不足している(本、ビデオ、人に教えてもらうことを中心に知識を得る)
- ・ 体力が不足気味。疲れやすい傾向がある。
- ・ 基本的な生活習慣に乱れが見られる(親の生活時間に子どもが巻き込まれている)
- ・ 我慢する力が弱い。
- ・ 自然とのふれあい、かかわりが少ない。
- ・ 自分でできることも、人に頼ったり、甘えたりする気持ちがある。
- ・ 根性や気力に欠ける面がある。

### [参考] カリキュラム(指針)策定にかかわったアドバイザーからみた浦安の印象

- 全国からの住民が流入し、古い伝統文化の息吹きと、新しく近代的な顔が共存する不思議なまち
- ディズニーランドが有名だが、教育の面から見ると2つの側面がある。
  - ・ 身近に夢と魔法の世界があることは、実生活と併せていろいろな体験、経験ができる環境にあるといえる。
  - ・ 夢の世界を対極に置き、現実の世界において自然体験や社会体験を通じて、様々な実社会で生きていくための基礎を身につける、それが幼稚園や保育園の使命であることを認識できる。
- 新町地区は、都市型の開発が進んだ結果、高層マンションが数多く立ち並んでいる。
  - ・ 同じマンションでも高層階に住む子どもほど、周囲との交流が少なく、また外に出なくなる傾向にある。
  - ・ コミュニケーション能力の育成や、体力をつけることが、テーマの一つと考えられる。
- 元町地区では、新町のような大型の公共施設や、公園、緑などの自然が少ない

## 3 指針策定の目的

### 1) 本市の特質

本市には、海面埋め立てによる急激な宅地開発を行ってきた歴史において、幼児教育・保育の推進を重点施策のひとつととらえ、市として12の保育園、及び14の幼稚園を整備し、それぞれ独自の教育・保育方針、並びに具体的な指導・保育計画に沿って取り組んでいる。

特に、幼稚園については本市の規模(人口16万人、0～5歳人口1万人)で見ると、このような数を整備している自治体は希少であり、そのことがまた本市の特質ともいえる。

## 2) 策定の目的

多様な保育ニーズに対応し、就学前のこどもがどのような教育施設、保育施設に通園していようとも、本市の公立保育園・幼稚園でこれまで培ってきたそれぞれの保育・教育ノウハウを十分活かしつつ、同じように質の高い教育・保育が実践できるよう、統一した教育・保育の指針を策定するものである。

またこの指針を通じて、保育園・幼稚園の交流・連携を活発にし、議論を重ね、お互いの教職員が相互に学びあいながら、保育・教育スキルを伸ばしていくという点からも大きな効果が期待できる。

### \*市計画への措置

#### ・第2期基本計画の措置

市民会議の提言を受け、子育て支援施策の一環として、幼保の連携した取り組みを推進する。認定こども園などの検討。

#### ・第1次実施計画上の措置

「浦安市就学前保育(教育)カリキュラム策定事業」

すべての幼児が豊かな学び環境で成長できるよう、幼保連携のもと、浦安市就学前保育(教育)カリキュラムを策定します。

## 第Ⅱ部 浦安市の育てたい子ども像



### 1 浦安市の育てたい子ども像

#### “生きる力”を身につけた子ども”

周囲の人との愛着や信頼関係を基礎とした、情緒の安定が最も重要である。これは情緒(精神)の安定が、充実した人間生活の根底にあるものだからである。そのうえにたって、安心・安全かつ充実した人生を送るための、<生きる力>を身に付けることを最大の教育・保育目標とする。

#### ◆目標を達成する三つの力をつける

##### 1) 心と体を動かして夢中になれる子・・・熱中力、体力

体を動かす喜びを知り、健康な体をつくる。心を動かし何かに夢中になれる子ども。人として生きる喜びを実感できる。

[具体的イメージ]

\* 運動・遊び・学習活動を通して、集中力と創造力を培う

☆ ☆ ☆

##### 2) 出会い～かかわり～心通わせ～成長する子・・・人間関係力

人との出会いを大切に、心を通い合わせながら、人間関係を大事に成長していく。

[具体的イメージ]

\* 日々の、先生、友だち、地域の人々などとの会話、協働作業などを通じた交流を大切にする

☆ ☆ ☆

##### 3) 基礎生活力を身につけた子・・・基礎生活力

日常生活を送るうえで最低限必要なマナーや知識、態度を身につける。

[具体的イメージ]

\* あいさつをはじめとする衣食住全般の良い生活習慣、他人への思いやり、きちんと人の話を聴き、自分の想いを伝えられる感性を身に付ける。



## 2 3つの力と具体的な姿

### 心と体を動かして夢中になれる子・・・熱中力

- ・思いきり体を動かして遊ぶ
- ・戸外でのびのびと遊ぶ
- ・諦めずに頑張る
- ・何でもやってみようとする
- ・物事に感動する
- ・気付き、何故とを感じる心をもつ
- ・様々なことに興味や関心を示し、集中して取り組む
- ・四季の移り変わりや自然の変化に気付き、触れ合う

### 出会い～かかわり～心通わせ～成長する子・・・人間関係力

- ・あいさつをする
- ・自分の気持ちを言葉で表し、伝える
- ・相手の気持ちを感じる
- ・自分を好きになったり人を大切にしたりする
- ・友達のよさに気付き、励ましたり認めたりする
- ・友達と一緒に遊ぶ楽しさを感じる
- ・身近な人に親しみの気持ちをもつ
- ・「ありがとう」「ごめんなさい」等が素直に言える
- ・場に応じて自分の気持ちを抑える

### 基礎生活力を身につけた子・・・基礎生活力

- ・よいことや悪いことがあることに気付き、考えながら行動する
- ・よく遊び、よく食べ、よく眠る
- ・人の話を聞く
- ・困ったことがあった時に、自分で伝える
- ・自分のことは自分でしようとする
- ・手洗いうがいなど、健康な生活に必要な習慣を身につける
- ・危険を察知し、自ら気をつけて生活する
- ・物を大切にすることも

### 3 「生きる力」を育む過程



## 4 発達の特徴と育ちの連続性

保育内容の中から、その時期の特徴的な姿を取り上げたものです。

心が育つ・体が育つ



### 0歳児

- ・首のすわり、寝返り、お座り、ハイハイ、つかまり立ち、伝い歩き
- ・手、指に触れたものを握る
- ・指先で物をつまむ
- ・食事、睡眠、遊びのリズムが安定してくる
- ・ぐずったり泣いたりして、眠り、空腹、排泄など、生理的欲求を伝える

- ・親しみをもっている人を目で追う
- ・あやすと笑い、語りかけに喃語やしぐさで応答する
- ・人見知りをする



- ・「ウーウー」「ウククンウククン」など、口を動かし声を出すことを楽しむ
- ・「マンマンマン」「ダダダダ」などのようにまとまりのある音声を発する
- ・「マンマ」「タータン」など、音声と対象が結びつく

- ・快、不快を笑ったり泣いたりすることで表現する



- ・音のするものに興味を示す
- ・人や物など、動くものを目で追う
- ・身の回りのものに手を伸ばし、触れたりなめたりする

保育・教育課程との  
リンク（関連）

#### 0歳児の保育内容

- I 誕生の頃（～56日）
- II ねんねの頃（～3ヶ月）
- III 首がすわる頃（3ヶ月～）
- IV おすわりの頃（6ヶ月～）
- V はいはいの頃（9ヶ月～）

事例では  
それぞれの時期のかわりのポイントが書かれています。

# 1 歳児

- ・歩行し始める
- ・手で投げる、足で蹴るなどの動きが可能になる
- ・立ったり座ったり自由に体勢を変えることができる
- ・指先が自由に動かせるようになり、つまむ、たたく、引っ張る、ちぎるができるようになる
- ・身の回りのことを自分でしてみたいという気持ちが出てくる

- ・自己主張が始まる
- ・身近な人に興味や関心を持ち、かかわろうとする
- ・身近な人と同じことをして喜び

- ・単語や「ワンワンねんね」などの二語分を話す
- ・「これなあに」と繰り返し聞く



- ・クレヨンなどで、なぐり描きをする
- ・歌や曲を聴いて、気に入った場面を声や体の動きで表現する

- ・ボールを転がしたり、投げたり、拾ったりすることを楽しむ
- ・積木を並べたり、積んだり、崩したりする
- ・水、砂、落ち葉、布など、身近なものに触れ、感触を楽しむ

## 1 歳児の保育内容

- I 1 歳～1 歳 6 ヶ月未満
- II 1 歳 6 ヶ月～2 歳未満
- III 2 歳～2 歳 6 ヶ月未満
- IV 2 歳 6 ヶ月～3 歳未満

事例では  
・体を使った遊び  
・手指を使った遊び  
を紹介しています。

# 2 歳児

- ・小走り、跳ぶ、昇り降り、押す、引くなど、体のバランスを保ちながら動く
- ・地面に両手をつき片足を上げたり股覗きをしたりする
- ・指先に力が入り、押さえたり、引っ張ったり、ねじったりする
- ・スプーン、フォークを使って食事をする
- ・ボタンをかけるなど、技術を要することに挑戦する
- ・大人に手助けされながら、着脱、排泄を自分でしようとする

- ・自己主張が強くなる
- ・一方的な指示に「やだ」と言い、「じぶんでじぶんで」と言う
- ・自分と相手との関係の強弱がわかる
- ・男の子と女の子の違いに興味を示し、相手の性別もわかり始める

- ・「いや」「もっと」「どうして」「なんで」など、自分の気持ちを表現する
- ・したいこと、してほしいことを身近な相手に簡単な言葉で伝える

- ・クレヨンでぐるぐる描きをしたり、同じ形のものや次々と描いたりして、意味をつけ始める
- ・「～のつもり」と意図をもって動いたり、描いたものを「～みたい」と見立てたりし始める

- ・積木を動かして「バス」と言うなど、ものや行為そのものからイメージを広げる
- ・身近にあるものを見立てて走らせるなど、見立て、つもり遊びをする
- ・形、大小、色などに関心をもつ



## 2 歳児の保育内容

- I 4 月～6 月上旬
- II 6 月上旬～9 月上旬
- III 9 月上旬～1 2 月
- IV 1 月～3 月

事例では  
・見立て遊び  
・手指を使った遊び  
・散歩  
・ごっこ遊び  
を紹介しています。

## 3歳児

- ・自分の体の動きをコントロールする  
鉄棒にぶらさがったり、ジャングルジム1・2段を登ったりするようになる  
両手に持ったボールを頭上から投げる
- ・簡単な折り紙を折る
- ・食事、排泄、衣服の着脱など、自分からしようと、できることで自信につながる

- ・自分の思い通りにしたがる
- ・友だちに興味や関心を示す
- ・自分の好きな遊びの場にいる友だちとかかわって遊ぶ
- ・簡単なルールのある遊びを身近な大人と楽しむ

- ・「おはよう」「ありがとう」など、人とかかわるあいさつの言葉を自分から使うようになる
- ・「なぜ」「どうして」といった質問を盛んにするようになる
- ・思いのままに感じたことを言う

- ・少しずつ形のある絵を描く
- ・「顔」から手足が出て、「頭足人」の絵を描き始める
- ・自分なりに感じたことや思ったことを表現して遊ぶ

- ・身近な素材や用具を使って、自由に描いたり作ったりすることを楽しむ
- ・身近な物の大小、色、形、多い、少ないなどの違いに気付く



### 3歳児の保育内容

- I 4月～6月上旬
- II 6月上旬～9月中旬
- III 9月中旬～10月中旬
- IV 10月中旬～12月
- V 1月～3月

事例では  
・お面、ペープサート作り  
・色水遊び  
・運動会ごっこ  
・鬼ごっこ  
・劇ごっこ  
を紹介しています。

## 4歳児

- ・ケンケン、スキップをする
- ・両手を別々に用いて一つのことをする  
はさみを使って、紙に描かれた線に沿って切る  
茶碗に手を添えて、箸を使って食事をする
- ・衣服の着脱やささまざまな身の回りのことを順序だててやろうとする

- ・少しずつ自分の気持ちをコントロールできるようになる
- ・一緒に遊びたい友だちができ、自分からかかわっていく
- ・人の求めていること、好きなことがわかって、一緒にしようとする
- ・「貸し借り」「順番」「交代」が見られるようになる

- ・「ぼく」「わたし」を代名詞として使える
- ・「だって」を使い、はっきりと自分の理由をもった主張になる



- ・天地（太陽や地面）のある絵を描くようになる
- ・自分なりのイメージをもち、遊びの場を作ったり見たりして遊ぶ

- ・身近な素材を使って、遊びに必要なものを作る
- ・生活の中で必要に応じて数を数えたり、量の大小を比べたりする
- ・身近な自然環境に興味を示し、かかわろうとする（水、砂、土、草花、虫、樹木）

### 4歳児の保育内容

- I 4月～6月上旬
- II 6月上旬～9月中旬
- III 9月中旬～10月中旬
- IV 10月中旬～12月
- V 1月～3月

事例では  
・4、5月の室内での遊び  
・色水遊び  
・「バルーン」の遊び  
・異年齢交流のリレー  
・地域活動で花の世話を紹介しています。

## 5歳児

- ・上手投げでボールを投げる
- ・小さなものをつまむ、紐を結ぶ、雑巾を絞るといった動作ができるようになる
- ・安全に気をつけて遊具や用具を使う
- ・一日の予定を理解することができる

- ・約束を守ろうとしたり、相手の気持ちを察したりすることができ始める
- ・役割分担や協力してやり遂げる喜びを感じる
- ・自己有能感をもつ
- ・互いの思いを言い合える友だち関係がもてるようになる

- ・文字を読んだり書いたり、数を数えたりすることに興味をもつ
- ・体験したり感じたりしたことを言葉で表現することを楽しむ
- ・相手にわかるように話す

- ・イメージをつくってから、描いたり作ったりする
- ・曲の雰囲気を感じながら歌ったり、友だちと気持ちを合わせて歌ったりする



- ・いろいろな材料を使って、自分なりに工夫して表現する
- ・左右対称、上下対象、配色を意識して作る
- ・生活の中で、数量、図形、文字、時間に関心をもつ
- ・身近な動植物に興味や関心をもつ

### 5歳児の保育内容

- I 4月～6月上旬
- II 6月上旬～9月中旬
- III 9月中旬～10月下旬
- IV 10月下旬～12月
- V 1月～3月

事例では  
・スケジュール作り  
・プール遊び  
・運動会  
・芋づるリース作り  
・グループ活動  
を紹介しています。

## 小学校就学期

- ・ルールのあるゲームの中で、素早く動いたり止まったりすることができる
- ・さまざまな運動が巧みになる  
跳び箱の開脚跳び  
ボールをつきながら走る、蹴る、キャッチする

- ・見通しをもって段取りを立てる力がついてくる
- ・社会の規範意識が身につく、行動する  
公共のマナー、交通ルール
- ・自己を客観視し、多面的な見方ができる
- ・互いに教え合い、助け合う力がついてくる
- ・子ども同士でルールに基づく役割交代、勝ち負けのチーム遊びを楽しむことができる
- ・自分の主張を一步譲って、仲間と協調したり意見を調整したりする

- ・目の前にいない人にも気持ちを伝えようと「書きことば」を身につけ、使い始める
- ・自作のストーリーを作って演じる
- ・経験したこと、テレビで見たこと、想像したことをまとめて、ひとつのストーリーを作ることができる

- ・自分のイメージしたように描いたり、細かな制作をしたりする
- ・完成をイメージしながら作り上げる
- ・歌詞の意味を理解しながら、声をそろえて歌う

- ・自分のイメージしたことを、さまざまな素材や用具を選んで描いたり作ったりする
- ・文字や数を使った遊びを繰り返し楽しみ、自分たちの遊びや生活に取り入れていく
- ・身近な動植物の世話をすることで、その成長や生態に興味や関心をもつ

\*食育の事例では  
「食の大切さ」  
「食への感謝」  
「食の楽しさ」  
「命の大切さ」  
がわかるように  
紹介しています。

\*保育園・幼稚園と小学校の連携  
幼稚園や保育園での遊びを通して  
学びが小学校の学習につながることを  
図式化して紹介しています。  
また、就学に向けての心配事を  
Q&Aで掲載しています。